

研修報告

総務常任委員会

2月12日～2月13日

●研修目的

地震・津波対策

1日目

●研修地

兵庫県淡路市

北淡震災記念公園

●研修内容

淡路島北部に位置し、阪神淡路大震災で甚大な被害を受けた。その時の野島断層が保存・展示されておりその脅威を実感した。



地震でまっすぐな塀が...

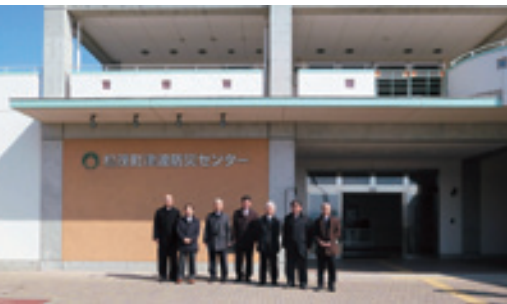
2日目

●研修地

徳島県松茂町

●研修内容

徳島県東部で人口約1万5千人、面積13・5km²で、徳島空港や高速バスターミナルなどがあり、交通の要所でもある。海抜が2mと低く、東側に紀伊水道に面した海岸線が4kmある。内閣府の想定では最大津波が6.2mで、町全体が浸水区域となっているため、防災教育や防災訓練が盛んに行われている。



沿岸地域の防災拠点として「津波防災センター」があり、設定以上の震度で自動開錠され、1,080人を避難収容できる施設である。

●今後の課題

大地震発生後の津波到着時間までに一次避難場所へ退避することの大切さが報告されている。当町も同じような平地の自治体であり、その一次避難場所の整備などの総合対策が急務である。また、各家庭への個別受信機の貸出しや液状化対策で矢板を打つなどの対策も検討すべきと感じた。

厚生常任委員会

2月21日～2月22日

●研修目的

資源ごみのリサイクル

1日目

●研修地

内子町大瀬

愛媛たいき農協堆肥センター

●研修内容

平成14年に国の補助事業により生ゴミの堆肥化に取り組んでいる。センターは県道より車で18分程度の山中に有り、地区2,200世帯から出る生ゴミが回収の対象である。90リットルのポリバケツを地区の回収場所に置き、各家庭から出た生ゴミを回収し堆肥センターで選別後、地区から出る牛ふん、豚ふん、微生物を混ぜ発酵分解を繰り返す。約200日程度で完熟堆肥になり、5千円/トンで販売している。



地区の集会、広報などで分別の周知をしている。悪臭も無く、発酵熱でむろの中は水蒸気が上がり担当者の熱意を感じた。

2日目

●研修地

兵庫県加東市

パナソニックエコテクノロジーセンター

●研修内容

2001年家電リサイクル法成立と共に操業を開始。現在では、国内24社のテレビ、エアコン、冷蔵庫、冷凍庫、洗濯機を年間70万台処理している。製品ごとに、リサイクル技術を開発することで廃棄物ゼロを目指している。金属では、鉄、銅、

生ごみの中に不要な物が時々混入しているが、

アルミなど、プラスチックでは、PP、PS、ABSなどにそれぞれの分離装置により97～98%の精度で分別され、リサイクル率は総合で85%を超えている。

工場内は、気流を作り集塵装置と空調設備を設置し、内部の作業環境3Kなどを指数化して改善している。ほこり一つ無い工場の中で、分解、分別リサイクルに感嘆した。



手作業で分解する家電製品

●今後の課題

松前町においても、一歩進めた、生ごみ処理とリサイクル率向上の取組みが必要と感じた。